キャンパスの青春

サークルいま、むかし ―グリークラブ―

「同志社のスピリット」を受け継ぐ

「所属学部はグリークラブ」と宣言したくなるほど練習に

1904（明治37）年創立の本学のグリークラブ。「椰子の実」や「同志社校歌」「庭上の一寒梅」の作曲家である大中寅次ら音楽関係者も輩出する「名門」サークルであり、入学式でカレッジソングを歌いあげる力強く美しい歌声を印象深く覚えている方も多いかと思います。和田島幸星（こうせい）さん（商4）・藤尾快（かい）さん（商4）・市川雄大（かずまさ）さん（経4）が現在のクラブについて、OB会理事長の森島敏夫さん（1978年 法卒）が、往時のクラブについてそれぞれ語ります。

左から和田島幸星さん、藤尾快さん、市川雄大さん

「入学式で最初にグリークラブの歌声を聴いた時は、その完成度の高さゆえにプロの合唱団が歌っているのかと思いました」と語る和田島さん。高校生の時にクラス対抗の合唱コンクールで指揮を担当したこともあり、当初から指揮者をしたいと考えていたのだとか。念願かない、現在は男声合唱で2番目に低いバリトンパートに所属する傍ら、学生指揮者としても活躍しています。

一方、市川さんも、初めてグリークラブの合唱を聞いた時は、CDが流されているのかと思ったとのこと。また、「当初は楽譜が読めなかったし、歌声がハモっているのかどうかもわからなかった」と入部当時のことを振り返ります。努力の甲斐あり、現在は新入生を歌で迎える大役を務めていますが、「新入生が最初に接する『先輩』は自分達なんだ、と光栄に感じながら歌っています」。所属するパートは和田島さんと同じバリトンで、チーフマネージャーと「内政」を担当しています。

これに対し、当初から「入団する気満々」だったと話すのは藤尾さん。それでも、「歌声を実際に耳にしたときは、男声合唱の歌声の力強さに魅了され、良い意味で衝撃を受けた」とのこと。男声合唱で最も低いベースパートに所属。幹事長として、部員一人一人のことを考えながら、団全体の運営に取り組みます。

例年であれば、入学式、卒業式、チャペルアワーに加え、全国の同志社フェアや演奏会、コンクールなどに参加。関西合唱コンクールでは13年連続金賞、2019年度全日本合唱コンクールでは銀賞を受賞する名門合唱団です。曲のレパートリーは広く、カレッジソングなどの同志社の曲に加え、讃美歌や黒人霊歌、2000年代以降の現代曲なども歌います。

第116回同志社グリークラブ定期演奏会（2021年1月）

コロナ禍の影響で2020年度は活動自粛期間が3～4カ月ほどあり、再開してからも換気などに気を付けながら練習を続けました。それでも、「学校行事や同志社フェアなどに向かって、団員が集まって練習できることが嬉しい」と和田島さん。市川さんは、後輩の成長を喜びにしながら、クラブのマネジメントに力を入れています。「先輩が築き上げてきたものを自分たちが繋いでいくという『使命感』を常に感じている」という藤尾さんは「グリークラブは『同志社のスピリット』を色濃く受け継ぐクラブであることを皆に知ってほしいです」と熱い思いを語りました。

OB会理事長の森島敏夫さん

「入学式でグリークラブのカレッジソングを聴いた時には、まさにカルチャーショックでした」と語る森島さん。高校卒業まで「歌い方の違いは、大声で歌うか歌わないかのどちらかだけ」という環境で生活していたため、洗練されたハーモニーにびっくりしたそうです。

その入学式から間もない頃、神学館前でグリークラブの部員が揃いの制服姿で歌っている様子に見とれていたところ、新入生を募集していた先輩部員にスカウトされて入部。2番目に高いセカンドテナーのパートを務めました。当時のグリークラブには、「講義よりも練習が優先される」という体育会系的な厳しさが満ちていました。そんな中、「所属学部はグリークラブ」と宣言したくなるほど、練習に打ち込むように。大学入学までは合唱を経験したことはありませんでしたが、プロの先生方に一から教えられ、変な癖を身に着けることなく歌えるようになりました。当時、著名な指揮者・編曲家である福永陽一郎氏が東京から来京して指導に当たられており、数多くを学んだと話します。「今でも、あの日本人離れした容姿としなやかに指揮棒を振る姿が目に浮かびます」とのことです。

森島敏夫OB会理事長が現役時代の第25回東西4大学合唱演奏会（1976年）

演奏旅行も盛んで、各地の県人会に呼ばれ、山陰、北海道などに演奏旅行に行きました。2回生の時には、北海道演奏旅行の費用を工面するため、祇園祭の太子山を曳くアルバイトを部員で開始。「出発する前には、部員がカレッジソングを歌いあげ、近所の皆様も見に来てくれました」と話します。なお、このアルバイトは現在のグリークラブでも続けられています。

現在、OB会の理事長を務める森島さん。コロナ禍の影響で各地区のOB合唱団の練習は休止しています。通常であれば、2年に1回、同志社・関西学院・早稲田・慶応の東西四大学のグリークラブOBが合同で演奏会を開催。それに向けて1年ほど前から集中的に練習し、全国のOBが参集して合宿を開きますが、こちらもコロナ感染再拡大により開催の見通せない状態になっています。しかし、現役グリークラブの活動支援のために募金を集めたり、新入部員勧誘のためのプロモーションビデオ制作を支援するなど、OB会の活動目的の一つである現役支援に力を入れています。「戦時中や大学紛争の時代にも部員が減り活動が停滞したが、コロナ禍の現在はそれに次ぐ3回目で最大の危機ではないかと思う。創部117年となる今年、現役部員には頑張ってほしいし、出来ることは協力したい」と話しました。